

# 「みえのうみ」環境保全活動促進事業（抄録）

水野知巳・藤島弘幸<sup>1)</sup>・竹内泰介<sup>1)</sup>・秋田清音<sup>2)</sup>・日向野純也<sup>3)</sup>・藤岡義三<sup>3)</sup>

<sup>1)</sup>農水商工部・<sup>2)</sup>赤須賀漁業協同組合・<sup>3)</sup>水産総合研究センター養殖研究所

## 目的

木曾三川河口域において漁業者とともにハマグリ等二枚貝類の干潟域における生息分布を調べ、干潟・生態系保全活動に必要な基礎的知見を得る。

## 方法と結果

2007年8月と2008年3月に揖斐長良川と木曾川の河口域において貝桁網（図1）を用いた二枚貝類の分布調査を行った。図2に示した測点で貝桁網30m曳きを行い、ハマグリとアサリの平均密度を求め、両河川の漁場面積をそれぞれ400haとして資源量を求めた。

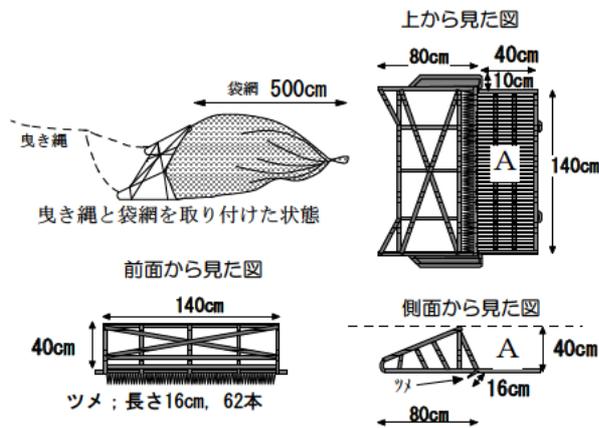


図1. 貝桁網漁具（ウンテン）の模式図

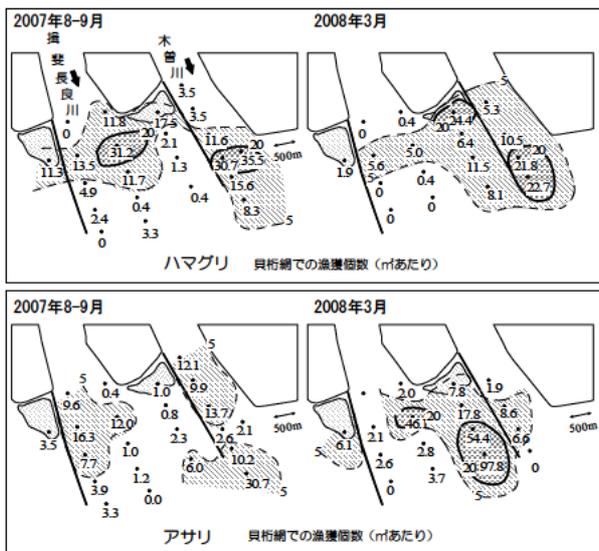


図2. 木曾三川河口域でのハマグリとアサリの密度（斜線；1個体/m<sup>2</sup>以上，格子；5個体/m<sup>2</sup>以上の分布域）

その結果、ハマグリの資源量は8月に501トン、3月に584トンと推定され（図2,3），1980年代以降最高の資源水準であることが分かった（図4）。特に殻長10mmから40mmまでの2005年度発生群と2006年度発生群が高水準で発生していた（図3）。一方、アサリの資源量は8月に258トン、3月に388トンと推定され（図2,3），3月には殻長25mm前後の漁獲サイズが高水準で見られた。赤須賀漁協は、伊勢湾では他に類を見ない漁獲規制（週2回4時間操業，アサリ・ハマグリ合計30kg制限）を20年以上継続して実施している。しかしながら、密漁者が急増しており、伊勢湾のこの貴重な資源を維持していく対策が必要である。

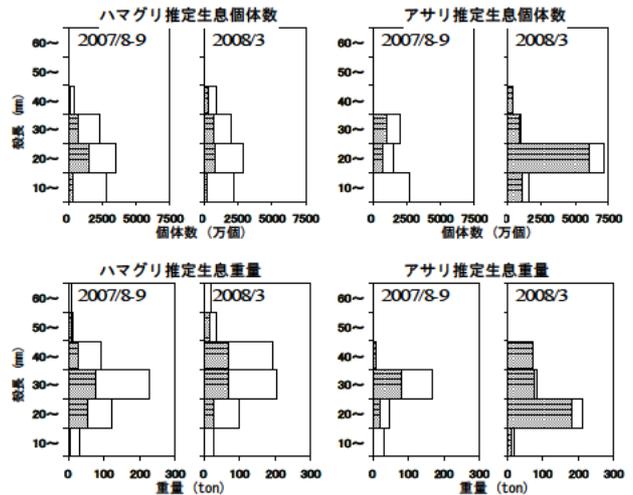


図3. 木曾三川河口域でのハマグリとアサリの殻長別の推定資源量（斜線部分；揖斐長良川，白抜部分；木曾川）

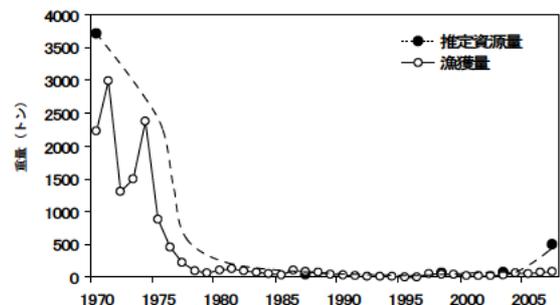


図4. 木曾三川のハマグリ漁獲量・推定資源量の推移

## 関連論文

三重県（2008）「みえのうみ」環境保全活動促進事業報告書，30pp.